

「横尾忠則 肖像図鑑」は、その名の通り、横尾さんのポートレート作品に焦点を当てた展覧会です。前回開催した「横尾忠則 どうぶつ図鑑」では、横尾さんの作品に描かれた動物を、「身近などうぶつ」「森・草原のどうぶつ」「水のなかのいきもの」など、8つのパートに分けて紹介しました。続く「肖像図鑑」は、その人間版ともいべき展覧会。横尾さんの作品に描かれた人物を、職業ごとに5つのパートに分け、さらに三宅一生、瀬戸内寂聴、檀一雄の各氏とのコラボレーションの中で生まれた一連の肖像画を合わせてご紹介するものです。



まんだら型に展示された『奇縁まんだら』挿画

本展のみどころの一つとして、瀬戸内寂聴さんのエッセイ『奇縁まんだら』に横尾さんが寄せた挿絵が挙げられます。瀬戸内さんが生涯に出会った様々な文化人とのエピソードを綴ったこのエッセイには、作家をはじめ芸術家、役者、政治家、僧侶、さらには死刑囚まで、じつに多くの人物が登場します。横尾さんはこうした人物たちの肖像を、毎回変化に富んだ多彩なスタイルで描いています。会場では、これらの肖像挿絵を、斜めに向かい合った2つの壁面に、その名前にちなんで「まんだら」を描くように展示しました。そして、この『奇縁まんだら』の挿画をきっかけとして制作されることになったのが、日本近代作家の肖像シリーズです。この一連の作品は、成島柳北から中上健次にいたるまでの明治以降の文学史上に登場する主要な作家たちの肖像を描いたもので、『奇縁まんだら』で描かれた作家を含めると、その数なんと222人！夏目漱石や森鷗外、太宰治、三島由紀夫など、私たちのよく知る作家たちの顔がずらりと並びます。『奇縁まんだら』挿画も作家の肖像画も、すべて写真からの模写によって描かれています。しかし、暗い色調で驚くほどリアルに描かれた作品

もあれば、逆に淡いパステルカラーが用いられた軽やかな印象の作品もあり、また人物が二重にずれて描かれたり、画中に作家の名前のアルファベットが描かれたり、様々なスタイルの変化が見られます。その数もさることながら、「肖像」という、どちらかと言えば定型的で退屈になりがちなテーマを、写真の模写に基づく人物の肖似性(似ていること)に根ざしながらも、多様な表現で描き分けていくことで、作品一つひとつが個性的な魅力を放っています。



横尾さんの「永遠のマドンナ」原節子さん《わが青春に悔いなし》1994年 | 作家蔵

本展ではほかにも、高倉健さんや原節子さんといった横尾さん憧れの俳優たちや、ピカビア、キリコ、マン・レイなど横尾さんが敬愛する芸術家たち、さらには横尾さんの家族まで、多彩な顔ぶれが勢揃いしました。横尾さんが長年に渡ってデザインを手掛けてきたイッセイ・ミヤケ・バリコレクションのための招待状では、1979年から90年まで三宅一生さんの肖像がメイン・ヴィジュアルとして登場しますが、ここでは画家とデザイナーという二つの顔を持つ横尾さんのセンスが十全に活かされ、毎回趣向を凝らしたポートレート・シリーズが展開されています。また、檀一雄さんによる新聞連載『蘆の髄から』に寄せた横尾さんの挿絵103点も注目すべき作品の一つ。70年代の横尾さんのイラストレーションに特徴的な細密な線描によって、染みやホクロ、髪の毛



手に握っているものは魚？《落下するビートルズ》1991年頃 | 作家蔵

会期中の11月3日に開館1周年を迎えた当館。今後ますますパワーアップし続けられるよう、様々な企画展やイベントを開催していきたいと思えます。ご期待ください！



イッセイ・ミヤケ・バリコレクションの招待状と原画

や髪の本一本ずつまでが執物とも思えるほど入念に描き込まれており、人物に迫力を与えています。60年代のポスターから最新作の作家肖像画にいたるまで、約590点が集結した「横尾忠則 肖像図鑑」。そして今回、本展と同時期に、当館の海側に位置する兵庫県立美術館では「横尾忠則 感応する風景」と題して、横尾さんの風景画に焦点を当てた展覧会が開催され、「肖像」と「風景」二つの視点から横尾さんの作品を楽しむ貴重な機会となりました。横尾さんによる展覧会のポスターも、今回は両館で対称的なデザインに仕上がっています。

Information 次回展関連イベント

横尾忠則の「昭和NIPPON」―反復・連鎖・転移

2014年1月25日(土)～3月30日(日)
 休館日：月曜日
 観覧料：一般700(560)円、大学生550(440)円、高校生・65歳以上350(280)円、中学生以下無料
 ※()内は前売料金および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし)
 ※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

あがた森魚ライブ

出演：あがた森魚
 3月1日(土) 14:00-
 会場：当館 オープンスタジオ
 協力：突撃洋服店
 ※参加無料(150席・当日先着順)

キュレーターズ・トーク

講師：当館学芸員
 2月8日(土)、3月8日(土)
 14:00-14:45
 会場：当館 オープンスタジオ
 ※聴講無料(100席・当日先着順)

ワークショップ「レトロマップをつくらう！」

水道筋商店街で昭和を探してみよう。
 講師：慈恵一(六甲技研 代表取締役)
 2月15日(土) 13:00-16:00
 会場：横尾忠則現代美術館、水道筋商店街
 対象：小学生以上(大人のみの参加可)
 ※小学生は保護者同伴のこと
 定員：20名
 ※要材料費
 ※高校生以上の展示室への入場は要観覧券
 ※要申込み(往復はがき)
 ※応募多数の場合は抽選

※各イベントの詳細はHPなどをご確認下さい

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

特別展

フルーツ・オブ・パッション ポンビドゥー・センター・コレクション

2014年1月18日(土)～3月23日(日)

コレクション展 | コレクション展Ⅲ

奥田善巳展

コレクション名品選 美術の始まるころ

11月23日(土・祝)～2014年3月9日(日)

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記

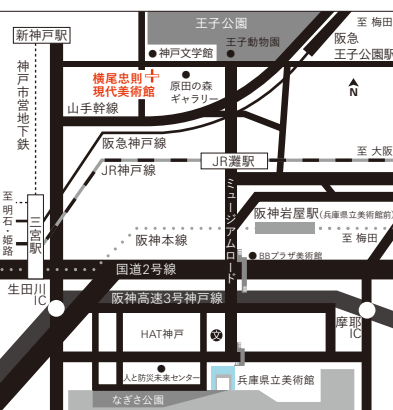
今回は横尾さんが足に怪我をされ、開会式やイベントに來られなかったりと美術館内部ではハプニングの多いWINTERとなりました。また開館一周年を迎え、美術館スタッフ一同ますます気を引き締めていきたいと思えます。次号もどうぞ楽しみに!(本庄)

「横尾忠則 感応する風景」開催



神戸ビエンナーレの会期中に兵庫県立美術館でも横尾さんの個展を開催することになり、担当に指名された私は、横尾忠則現代美術館の「肖像図鑑」と対にしたいと思って、「風景」をテーマに選びました。「Y字路」の部屋、「原風景」と「故郷」に通じる展覧会は、4つの章、つまり、「日本原景旅行」「原風景」「故郷」「Y字路」から成ります。「日本原景旅行」(1970年代に雑誌に連載したシリーズのタイトル)の「原景」は「原風景」の省略形と考えられますし、原風景は横尾さんが幼少年期を過ごした「故郷」の西脇に負うところ大です。さらに、その西脇で「Y字路」が見出されたのですから、結局、この4つはすべて関連しあっています。横尾さんの風景の4つの変奏と見なしてよいでしょう。したがって、その並列的な関係を空間上でも反映させようと目論みました。可動式の壁を使ってひとつの展示室を4つの部屋に仕切るわけですが、鯉の寝床のような長細い展示室の真ん中あたりを入口とし、そこに最初の部屋である「原風景」を設け、そこから各部屋にダイレクトに行くことができる配置にしたのです。とくに「原風景」から「故郷」と「Y字路」の両方に分岐しているのは、Y字路のコンセプトの翻案です。展覧会の内容を空間的に表現するのは、学芸員の楽しみのひとつです。いつも四苦八苦しますが……。

出原均 | 兵庫県立美術館 常設展・コレクション収集管理グループリーダー



Y&T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
 Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
 www.ytmooca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.4

2013年12月25日発行
 編集・発行：横尾忠則現代美術館 印刷：株式会社 大伴社



the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER

Special Report “横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS”

Event Report

- 01 「横尾忠則 どうぶつ図鑑」関連イベント
- 02 入館者10万人達成記念セレモニー開催
- 03 博学連携によるインターンシップについて

Column

公開制作@青森県立美術館

Preview

横尾忠則の「昭和NIPPON」―反復・連鎖・転移

Editors' Choice

MUSEUM SHOP・建築案内

Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館
 展覧会スケジュール



22 与謝野鉄幹
Yamao Tetsuro



23 泉鏡花
Izumi Hana

Special Report 横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS



「横尾忠則 肖像図鑑」(左)と「横尾忠則 感応する風景」(右)のポスター



21 岡本綺堂
Okamoto Kaitani

Preview 横尾忠則の「昭和NIPPON」―反復・連鎖・転移

2014年1月25日(土)～3月30日(日)



この展覧会は、横尾さんの作品を通じて「昭和」という時代の精神史を読み解くことを試みるものであり、当館にとって「初めて」となる要素がいくつも含まれています。まずひとつ目は、青森県立美術館とのコラボレーションによる展覧会だということです。9月7日(土)～11月4日(月・祝)にまず青森県立美術館で開催され、好評を博した展覧会がいよいよ当館に巡回してきます。さらに注目されるのは、横尾さんのグラフィック・デザイナー時代の代表作が多数展示されるということです。2012年11月の開館以来、当館では横尾忠則の「いま」を伝える展覧会を開催してきました。必然的に、出品作品は新作を含む「画家宣言」以降の絵画作品が中心でした。ところが、今回は'60年代のポスターの代表作の数々が目白押しです。伝説的なグラフィック・デザイナーのグループ展「ペルソナ」に出品され、異色のデザイナーとしての存在を決定的にした《Tadanori Yokoo》(1965年)、唐十郎が主宰する劇団状況劇場のための《腰巻お仙》(1966年)などなど、日本のグラフィックデザインを代表する名作であり、また戦後のアングラム・ムーヴメントを語るうえでなくてはならない作品の数々が、いよいよ当館で展示されることとなります。横尾ファンなら絶対に見逃すことのできない展覧会を、ぜひお楽しみに！

山本淳夫 | 本館学芸課長

《TADANORI YOKOO (松屋) 1965年 | 作家蔵

Column 公開制作@青森県立美術館



プロジェクターから投影されたイメージと一体化した横尾さん



「やはい、これ終わらないね」

青森県立美術館での「横尾忠則の『昭和NIPPON』―反復・連鎖・転移」展のオープン当日(9月7日)、横尾さんの公開制作が行われました。場所が変わっても公開制作はやはり注目の的で、開始予定時刻のかなり前から、会場は多くの観客の熱気に包まれていました。今回は、神戸で何度か行われた公開制作とは少し様子が違っていました。というのも、用意されたまっさらなキャンバスに、あるイメージがプロジェクターで投影されているのです。これを見てピンと来た方は相当ツウです。そう、映し出されていたのは、横尾忠則現代美術館の開館記念展「反反復復反復」のために描き下ろされた《Y字路を描く》(2012年)。つまり、自作を寸分違わず黒の線描きで模写しようという訳です。その背景には、実は面白い試みが隠されていました。この模写作品が完成したら、そのイメージをコピーし、参加者が自由に彩色する、つまり観客参加型の塗り絵ワークショップの原画となるのです。ところが若干の問題が、《Y字路を描く》は、空以外すべて細かな煉瓦模様で埋め尽くされていて、ぜんぶ忠実になぞると異様に時間がかかるという……。結局この日は時間切れて、作品は“未完成”のまま、次の機会まで持ち越しとなりました。

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT 01 「横尾忠則 どうぶつ図鑑」関連イベント



横尾さんの描き方を真剣に真似しています



どの写真を使おうかな

01-1 “なりきり横尾画伯”

2013年8月6日(火)、7日(水) 13:00-
当館 展示室, オープンスタジオ (1F)

横尾さんは既存のイメージを流用しながら、それを横尾流にアレンジして制作した作品がたくさんあります。今回のイベントでは、そうした制作手法に則って、参加者にまず横尾作品を模写してもらい、その上から自分流にアレンジして

もらいました。展示室で絵を描くということに緊張して最初は真っ白だった画用紙も、慣れてくると複数の作品を模写して組み合わせるなど、画面もどんどんにぎやかになっていきました。オープンスタジオに戻って絵具やクレヨンで色を塗ったり、動物の写真を上手にコラージュしたり、独自のアレンジを加えていき、40名の画伯それぞれの世界観の作品が出来上がりました。

01-2 “ふしぎ発見!”

2013年8月14日(水) 14:00- | 当館 オープンスタジオ (1F)

「横尾忠則どうぶつ図鑑 YOKOO'S YOKOO ZOO」では、神戸市立王子動物園との様々なコラボレーション企画を行いました。「ふしぎ発見!」はそのうちの一つ。同園の動物科学資料館から山崎幸雄先生・通称『山ちゃん』をお迎えし、動物にまつわる様々なお話やクイズをしていただきました。動物園の裏側の様子やパンダの餌の食べ方、鳥類の足の仕組みなど、動物の貴重な姿を捉えた映像と共に紹介されるお話に子どもも大人も興味津々。山ちゃんの軽快なトークに引きこまれ、笑いの絶えないイベントになりました。



王子動物園の人気者、パンダのタンタンについて語る山ちゃん



ゾウについて語る木下先生

01-3 “ゾウの長い長いはなし”

2013年8月31日(土) 14:00- | 当館 オープンスタジオ (1F)

19世紀の日本文化を研究されている、東京大学の木下直之先生をお招きし、「日本人とゾウ」をテーマにした講演会を開催しました。動物園では人気者のゾウですが、すでに江戸時代に何度かやってきました。盛り場での見世物から動物園の人気者になっていくまでには、意外な歴史と日本人との付き合いがありました。浮世絵や引札と、日本各地で飼育されていたゾウの写真などを参考に、日本人がどのようにゾウを見てきたのか、祭礼やサーカスや動物園においての役割とはどういったものだったのかなど、さまざまな切り口でお話は進みました。日本人と付き合いの長いゾウですが、近年では国内の飼育数が減少傾向にあります。それを踏まえて、これからの動物園の在り方にも触れたお話は大変興味深いものでした。

「いつまでもあると思うな親と動物園」という、これからの動物園の未来を考えさせられる木下先生の言葉は、深く心に響きました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 02 入館者10万人達成記念セレモニー開催

2013年10月30日(木) 15:00- | 当館 オープンスタジオ (1F)



養館長から記念品を贈られた飯間さん



横尾作品に見入る飯間さん

10月30日(木)に、入館者数10万人目のお客様がご来館され、記念セレモニーを行いました。2012年11月3日の開館から約1年での10万人達成となりました。記念すべき10万人目のお客様は香川県高松市からお越しの飯間絵未さんです。飯間さんは着物のアドバイザーで、普段から横尾さんの色使いを参考にしているそうです。今回、記念品として『横尾忠則オリジナルトートバッグ』と『横尾さんのサイン入り肖像図鑑展

図録』を養館長からお贈りしました。「びっくりしましたが、横尾作品の大ファンなのですごく嬉しいです。」と感激されていました。「ますます多くの人に知ってもらえるよう、いい展覧会を開いて行きたい。」と養館長。今後とも美術館スタッフ一同気を引き締めてさらに楽しい展覧会を開催していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本庄洋子 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 03 博学連携によるインターンシップについて



整理作業の様子

開封されたアーカイブ資料

マスクをして資料の仕分けをします

調査データをパソコンに入力します

当館には横尾さんからお預かりした大量のアーカイブ資料を保管し、整理活用するアーカイブルームがあります。普段は学芸スタッフを中心として段階的に資料の整理作業を行っていますが、本年度より活動を更に充実させるため、神戸芸術工科大学に協力をお願いし、インターンシップ制度を活用することからアーカイブ資料の整理に取り組むこととなりました。

活動に参加したインターン生4名には、約600箱の資料の中から、主に掲載誌の入ったダンボールの内容確認や、写真撮影の補助、また図書資料の整理・データベース入力といった作業をお願いしました。最初は美術館での慣れない作業に戸惑いをみせていたインターン生でしたが、作業を重ねるにつれて徐々にペースをつかみ、最終的には約2ヶ月間でダンボール57箱分(約1,600点)もの資料を調査することができました。(インターンの皆様お疲れ様でした。)

こうした博学連携によるインターンシップは、来年度以降も継続して実施していく予定です。また他大学との連携についても今後検討し、できるだけ早く、横尾さんのアーカイブ資料の全貌を皆様にご覧いただけるように努めていきたいと思っております。

井須圭太郎 | 本館学芸員補助

Editors' Choice MUSEUM SHOP・建築案内

MUSEUM SHOP 定休日: 休館日に同じ Tel 078 855 5697



『絵草紙 うろつき夜太』復刻版



『絵草紙 うろつき夜太』オリジナル



明治以降の文学史上に登場する主要な作家の肖像画を描くという異例の試み

今回のオススメは約40年前に刊行された『絵草紙 うろつき夜太』の復刻版です。1973年から1974年にかけて『週刊プレイボーイ(集英社)』に連載された時代小説『絵草紙 うろつき夜太』を一冊にまとめた豪華本(1975年刊)が復刻版として2000部限定で出版されました。データが何も残っていないため、何度も色を横尾さんに確認してもらい当時の色調を再現したそうです。また、当時叶えられなかった横尾さんの要望も今回実現しているそうです。復刻版はさらに進化したものに仕上がっていると言えるのかもしれない。次にオススメなのは「横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS」にも展示された『日本の作家222』です。成島柳北から中上健次まで日本の近現代文学者222人を網羅した肖像画集で、222人のうち180人あまりの肖像画はこの画集のために描き下ろされたそうです。ぜひお手に取ってご覧ください。

建築案内 内装編～「色」について 1982年施工・2012年改修



30年という味わいのあるタイルとエレベーター



横尾さんの提案により生まれた赤い壁

お客様がご来館され、まず目にされるのは白く明るいオープンスタジオです。三方が大きなガラス面に覆われ、開放的な空間となっております。一見真っ白な空間にも見えますが、よく見てみると30年前のタイル壁などを残しており少し温かみのある空間になっています。

エレベーターも当時のものを使用していますが、

内部の壁には横尾さん好みの彩度の高い青を使用しています。4Fの赤い壁は横尾さんからの「もう少し個性、色が欲しい!」という提案を受けたものです。最初は床も壁も天井も赤になりそうだったのですが、アーカイブルーム室内まで赤になると資料が見辛くなるなどの機能的理由から今の状態に落ち着きました。

ご来館の際は、ぜひ当館ならではの「色」を体験してみてください。



エレベーター内部の青い壁

本庄洋子 | 本館学芸員補助